

「安全」訴える一斉キャンペーン実施

全拠点でリーフレットを同時配布

東洋製罐グループの物流会社である東洋メビウス（本社・東京都品川区、篠山健司社長）は10日、全国の物流拠点で事故防止や安全の重要性を訴える一斉キャンペーン実施した。運送時

リーフレットを直接手渡し、安全の再徹底や意識醸成を促した。

や構内作業時の事故が前年よりも増えていることを受けて、協力会社のドライバーや作業員に安全のポイントなどをまとめた

当日は、同社の幹部社員が全国にある物流拠点に一斉に赴いた。このうち篠山社長は、主力拠点のひとつ



篠山社長がドライバーにリーフレットを直接手渡し

である東洋製罐石岡工場内にある石岡支店（茨城県石岡市）を訪れ、同支店に出入りするドライバーや構内作業員に感謝の思いを伝えるとともに、リーフレットを手渡した。

同社が契約する運送協力会社・作業会社は、スポットを含めると約320社に達し、日々約1000台の車両が稼働している。このため、リーフレットは3500部を作成。ドライバーが車内に保管しやすいよう、A4判を三つ折りにしたコンパクトな体裁とした。リーフレットには、とくに注意してほしい安全のポイントとして、バック時の降車確認やフォークリフト作業時における安全確保などを記載。また、実際の事故事例をもとに、事故が起きやすい時間帯が「8～9時」と「13～14時」であることを挙げ、あらためて注意を喚起している。

同社の横澤孝二取締役（事業本部本部長兼運輸事業部長）によると、「運送、構内作業ともに、始業直後と昼休み前後に事故発生率が高まる傾向がある。ドライバーや作業員の気持ち切り替わるタイミングに事故が起きやすくなっていることを知ってほしい」と語る。このほか、リーフレットには同社が策定している運送と作業それぞれの「安全宣言10ヶ条」を記載した。

同社によると、2024年度における労働災害の発生件数は、前年比で約1.5倍に増加。「ドライバーや作業員の高齢化が進んでいるほか、人手不足が背景に人材の入れ替わりが増

え、経験の浅い人材が増えていることが背景にあると考えられる」（同）と危機感を抱く。このため、これまでとは違った手法で安全への意識を高める必要があると判断し、今回の一斉キャンペーンの実施に至った。■



構内作業員にも日頃の感謝とともに